

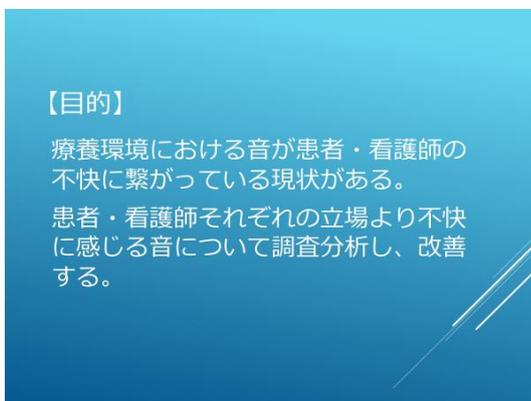
演題 (事務局 記入欄)	療養環境における不快な音の改善 ～患者・看護師の立場より～
	発表者 曾根 恭子 (岐阜県 国民健康保険飛騨市民病院) 共同研究者 今井 晴美、中野 亜李紗、後藤 弘子、岩崎 美幸



期間：令和2年6月～11月

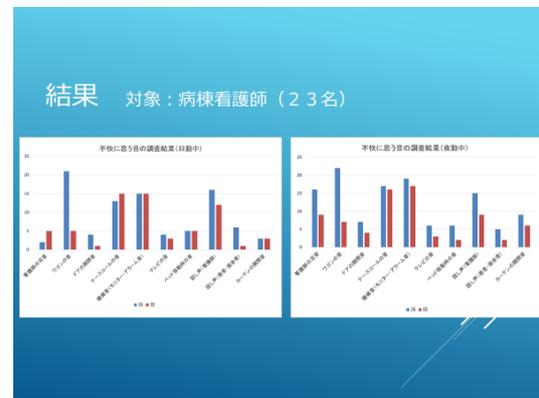
対象者：当病棟入院患者、病棟看護師

方法：令和2年6月、病棟看護師23名を対象にアンケートを実施。令和2年6月～8月、退院が決定した入院患者40名を対象にアンケートを実施。アンケート結果を基に、不快に感じる音を改善。改善後、10月に病棟看護師23名を対象にアンケートを実施。令和2年10月～11月、退院が決定した入院患者40名を対象にアンケートを実施。

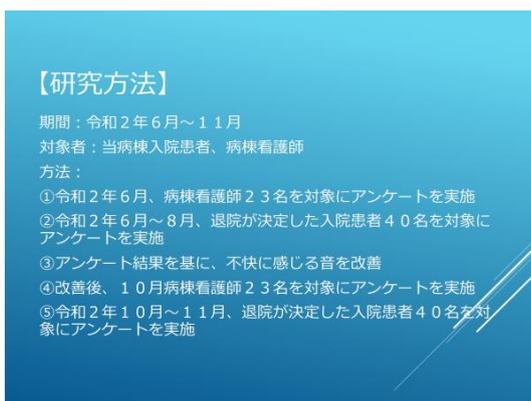


目的

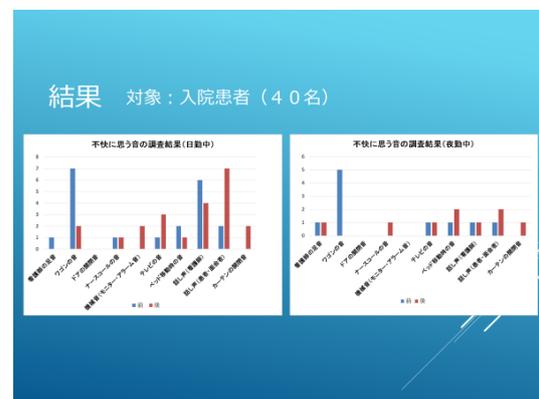
療養環境における音が患者・看護師の不快に繋がっている現状がある。患者・看護師それぞれの立場より不快に感じる音について調査分析し、改善する。



アンケート結果はスライドをご参照ください。



研究方法



こちらは患者のアンケート結果です。

【結論】

不快に感じる音を改善することで、患者・看護師の不快を減らし療養環境の改善に繋がった。

人的な不快に感じる音に対しては、視覚からアピールすることで、看護師個人の意識付けや行動変容に繋がった。

結論

不快に感じる音を改善することで、患者・看護師の不快を減らし療養環境の改善に繋がった。

人的な不快に感じる音に対しては、視覚からアピールすることで、看護師個人の意識付けや行動変容に繋がった。